

事業の実績	いずれも熊日会館において、3回の活動を実施した。 *各回の報告は別紙
<p>1. 第1回留学生プレゼン大会</p> <p>9月6日、ハイブリッド方式で留学生による日本語プレゼンテーション大会を行った。発表者6名（高校留学生等）、学生サポーター5名、聴衆は、Zoomでの参加者約20名（留学生ホストファミリー、東京外務省留学生関係者等）、会場参加者約20名（慶誠高校校長等）。</p> <p>2. 第2回留学生プレゼン大会</p> <p>12月6日、ハイブリッド方式で、日本人（英語）と留学生（日本語）によるプレゼンテーション大会を行った。発表者12名（日本人学生3名・高校留学生9名）、学生サポーター7名、聴衆は、会場約40名、Zoom参加者50名以上。</p> <p>3. クッキングトーク（外国語でおしゃべりしながらクッキング）</p> <p>1月28日、料理講師を招き料理をしながら英語・中国語等、様々な言語で話しながら交流と語学学習を進めた。参加者21名（留学生・教員計17名、料理講師・助手4名）、</p>	
具体的な成果	<p>(1) 高校の留学生との交流のネットワーク形成</p> <p>3回の活動を通じ最も大きな成果は、本学学生と、高校の留学生及び高校関係者と交流のネットワークが形成されたことである。交流の対象となった高校は、慶誠高校に始まり、尚綱高校、熊本北高校等、現在も徐々に拡大している。また、今回の活動のうち2回はハイブリッド開催をしたことにより留学アドバイザーなどの協力を得て、東京や宮城など全国の高校の留学生の参加が実現し、今後の交流の可能性を広げることができた。</p> <p>(2) 本学学生の国際交流実務に関する実践力の向上</p> <p>3回の活動の企画・運営は、いずれも本学大学院生及び学部学生が中心スタッフとなって行い、3回の継続的な活動を通じて学生一人一人の国際交流実務に関する実践力の向上が見られた。最後の反省会では学生自身の活動の振り返りを行い、それぞれから自己の成長を確認する声が聞かれた。</p> <p>(3) 本学の国際交流拠点としての発信</p> <p>本学の国際交流の拠点として、学外の場所を据えることにより、多少なりとも地域への効果的発信ができたと思う。今回の3回の活動だけでなく、本学の国際交流活動を意識的に地域の中で行うことで「びぶれすで学園大がいつも国際的な面白いことをやっている」という印象を地域に植え付ける第一歩になったのではないかと思う。</p> <p>(4) 高校の留学生の日本語教育に関する実態の把握</p> <p>最後に、今回の事業の予想外の成果として、熊本県内外の高校の留学生の実態がかなり明らかになったことが挙げられる。多くの留学生は高校の中で少数であるため、他の高校の留学生と横のつながりや系統的な日本語教育を欲しており、高校での留学生支援の問題も浮き彫りとなった。</p> <p>課題として、今後活動を継続する場合、参加学生をできるだけ全学的に発展させること、県内外の高校留学生の実態に関して基礎的な調査を行いより詳細な実態を把握すること、発信方法として技術的な問題やより効果的な方法を検討すること等が挙げられる。</p> <p>最後になりますが、今回の助成を得て、多くの成果と学びを得ることができましたことに、改めて御礼申し上げます。</p>